

高大連携教育

「コミュニケーションリテラシー」 の取り組み ～授業内容と経過・成果・評価～



平成26年2月26日

中村学園大学 中村学園大学短期大学部

第3回 高大接続教育研究会

ソニー学園 湘北短期大学 情報メディア学科教授
(リベラルアーツセンター)

小棹 理子

本日の内容

1. はじめに

- 湘北短期大学の紹介
- 教育を取り巻く環境

2. 入学事前授業開発のきっかけ

- 高大連携校との研究会 : コミュニケーション教育研究会
- 全国高校へのアンケート

3. 入学事前授業確立まで

- 「入学前講座」の試験的開講と 受講生へのアンケート
- 文部科学省 GP支援による内容の充実
- e-ラーニングの導入と内容の完成

4. 効果の検証

- 受講生への追加アンケート / 客観評価 : 社会人キャリア力育成アセスメント
- さまざまな観点での評価
- 評価のまとめ

5. おわりに

1-1 About us — 湘北短期大学

■ 神奈川県厚木市 小田急小田原線 本厚木駅からバス10分

– 新宿、横浜、小田原から約1時間

■ 4 学科 1 学年 500名 の 総合短期大学

- 情報メディア学科 (男・女) (定員：100名)
- 総合ビジネス学科 (男・女) (定員：140名)
- 生活プロデュース学科 (女) (定員：140名)
- 保育学科 (男・女) (定員：120名)

■ 4つのセンター 共通の「就業力」を身につける

- リベラルアーツ (LA) センター 人間力
- グローバルコミュニケーション (GC) センター 国際力
- ICT教育センター 情報力
- インターンシップ° (IC) センター 実践力



■ 6度 文部科学省GPに選定

– 平成21年度「現代型社会人育成を俯瞰する入学前教育構築」

1-1 本学の人材育成

教育理念 — 「社会で本当に役立つ人材の育成」

覚える人



考える人

聞いているだけの人



自分の考えを表現できる人

誰かに決めてもらう人



自分で決めて実行する人

湘北スタイル

1-1 湘北短大型 入学事前授業 「コミュニケーションリテラシー」の概観

■ 現代型社会人育成を俯瞰する入学前教育

- 入学前に湘北短大の実践型授業が体験できる構成
グループワークを取り入れたPBL型科目
- 入学後にリベラルアーツ科目 2単位が認定される



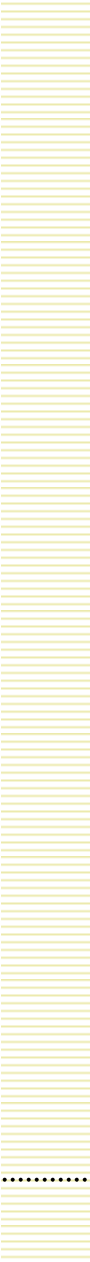
■ 入学前の2～3月に大学と同じ形式の授業を実施

- 1コマ 90分、12コマで4日間 通学
- 入学後4月－5月 に残り3コマ を開講、計15コマ

■ 本学への入学予定者全員が対象

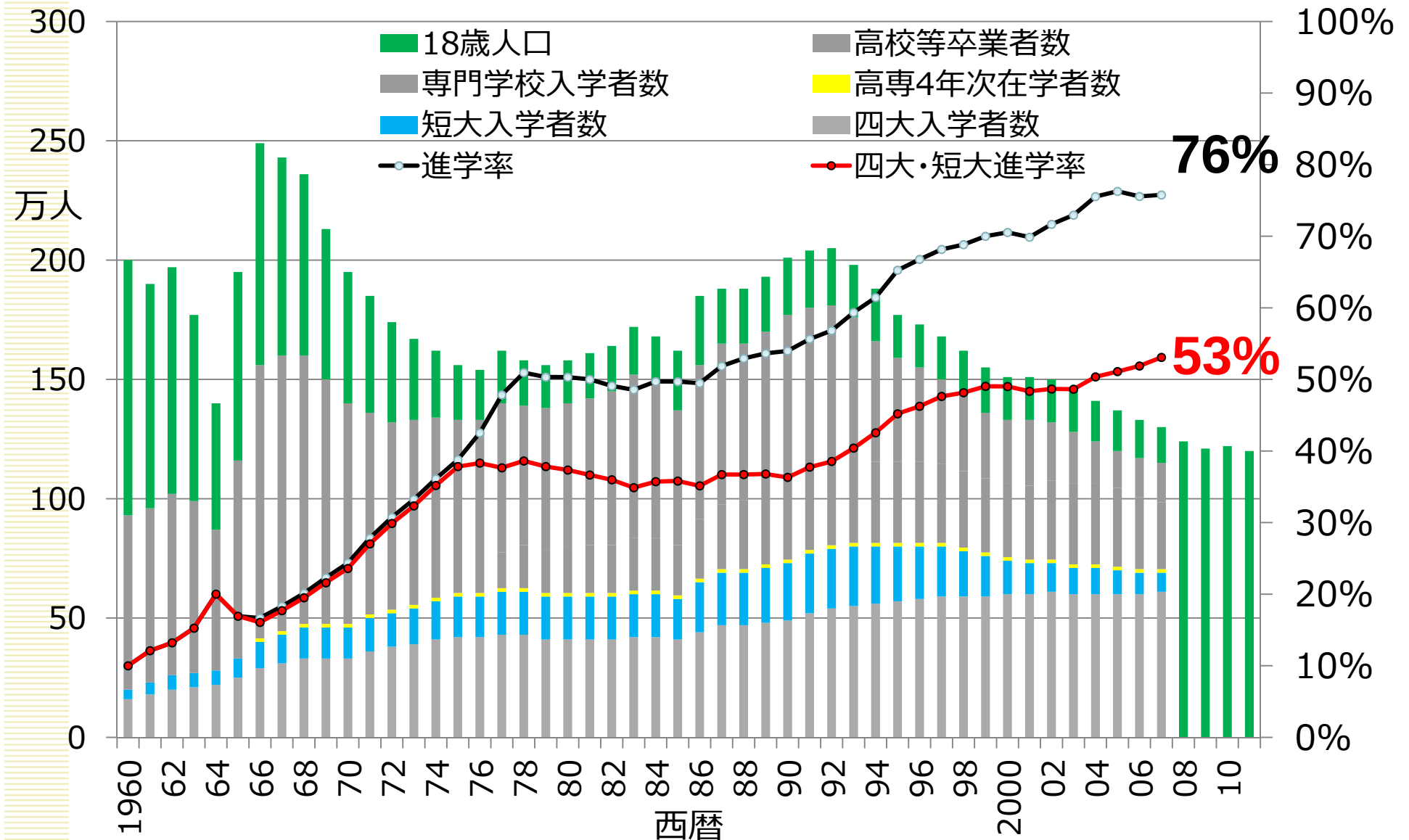
- 入学者の90%超が受講
- 4学科 混合
- 4日程、 各日程 100名～120名が受講





1-2 教育を取り巻く環境

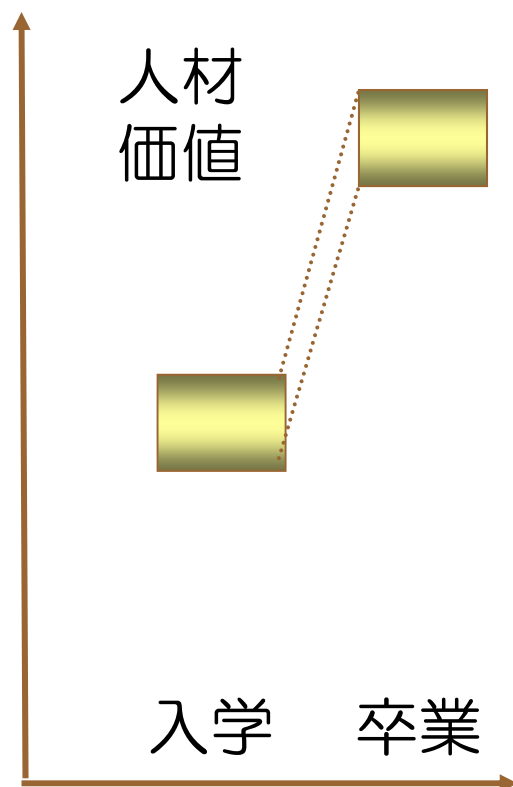
1-2 大学のユニバーサル化



1-2 ユニバーサルアクセス段階の教育

③エリート教育

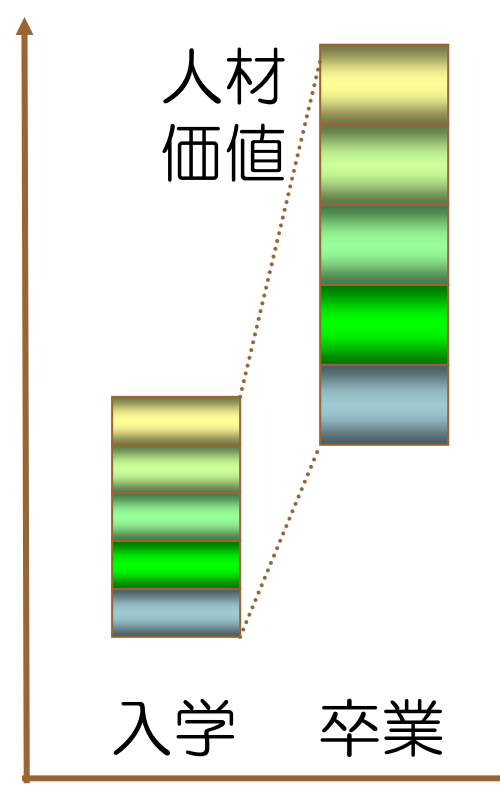
進学率15%以下



②マス教育

①ユニバーサル教育

進学率50%超



③ 才能ある
学生の徹底教育



② 学生の能力
や個性に応じた
多面的教育



① 基礎能力と
社会適応力を
重点教育

1-2 社会的に要請される能力の変化

メリトクラシー (産業社会)

- 基礎学力
- 標準性
- 知識量・知的操作の速度
- 共通尺度で比較可能性
- 順応性
- 協調性・同質性



ハイパーメリトクラシー (ポスト近代社会)

- 生きる力
- 多様性
- 意欲・創造性
- 個別性・個性
- 能動性
- ネットワーク形成力・交渉力

本田由紀、「多元化する「能力」と日本社会—ハイパー・メリトクラシー化のなかで」

1-2 教育行政の基本的方向性

(4 ビジョン・8 ミッション) 抜粋

1. 社会を生き抜く力の養成

－ 多様で変化の激しい社会の中で個人の自立と協働を図るための主体的・能動的な力

① 生きる力の確実な育成（幼稚園～高校）⇒ 生涯にわたる学習の基礎となる「自ら学び、考え、行動する力」などを確実に育てる。

② 課題探求能力の修得（大学～）⇒ どんな環境でも「答えのない問題」に最善解を導くことができる力を養う。

◆ 点からプロセスを重視した高大接続

④ 社会的・職業的自立に向けた力の育成

◆ 体系的・系統的なキャリア教育の充実

2. 未来への飛躍を実現する人材の養成

－ 変化や新たな価値を主導・創造し、社会の各分野を牽引していく人材

3. 学びのセーフティネットの構築

－ 誰もがアクセスできる多様な学習機会を

4. 絆づくりと活力あるコミュニティの形成

－ 社会が人を育み、人が社会をつくる好循環

1-2 高大接続（中教審の特別部会）

高校教育と大学教育を連続させてとらえ、相互が補完しながら
人材を育成

大学教育の質的転換

高校の質保証改革

大学入学者選抜の改善

- http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo12/index.htm

1-2 本学と高大連携協定を結んでいる高校



1-2 高大連携の内容（現在）

■ 高大連絡協議会 （年1回、3月開催）

- 本学内で実施
- 年度事業報告と次年度計画を策定
- 高校教員との意見交換



■ 教育研究会 （年2回、～2時間） 2013年度の例

- 7月：思考し、判断し、表現する力の育成-問題解決と言語活動
- 1月：「対話による学び」について考える
- 質疑・応答の時間を十分に設ける

■ 「高大連携通信」の発行 （年2-3回）

- コミュニケーションリテラシーの実施案内・報告
- 研究会の案内・報告
- 高校からの寄稿 等



湘北短期大学の入学前学習

1. 各学科独自の入学前課題
2. 全学科共通の**入学事前授業**を行う「コミュニケーションリテラシー」

2. 入学事前授業を行う 「コミュニケーションリテラシー」

2. 入学事前授業開発のきっかけ

- **高大連携校との「情報教育研究会」から始まった**
 - 趣旨：「社会で求められている広範なIT能力をもった人材を育成すべく 高校・大学間でシームレスな情報教育を構築するための研究を行う。」
 - 平成18年度 特色GP「**高大連携による地域教育ネットワークの形成**」
 - 平成18年～19年 準備段階
 - 高校での教科「情報」の必修化に伴う問題の解決
 - 大学におけるいわゆる「情報リテラシー」科目の再検討
- **高大連携高校に対してアンケートを実施**
 - 高校における情報教育の実施状況の把握
- **情報教育研究会 設立（平成19年4月）**
 - 研究会の目的： **接続プログラム**の開発
 - 25校に対し参加よびかけ
- **コミュニケーション教育研究会に名称変更（平成19年5月～）**
 - 接続プログラムは「情報」に限定しない

2-1 コミュニケーション教育研究会

回	日時 (2007)	場所	内容
1	4月17日	湘北短大	新しい高大連携接続教育のコアとしてコミュニケーション能力の育成が必要であることを確認。他の接続教育プログラム例の紹介。
2	5月16日	神奈川県立茅ヶ崎高校	大学教員が高校の授業を参観、図書室見学
3	6月13日	湘北短大	他参考例の紹介。接続教育プログラム用テキスト内容具体案の策定。
4	7月30日	湘北短大	高校教員から見て生徒に必要な能力 を把握するためのアンケートを実施
5	9月20日	湘北短大	
6	11月8日	湘北短大	「キャリア基礎能力・社会人基礎力」アップをめざした 接続講座の開発・実施
7	12月13日	湘北短大	
8	2008年1月22日	湘北短大	申し込み状況の確認と当日打ち合わせ。
9	2月15、16、 28(29)日、 3月12日(最終日)	湘北短大	高校教員・湘北教職員による「 コミュニケーションリテラシー 」講座(全12講)を開講。講座第12講(グループ発表)を高大連携各校に公開。(高大連携協議会開催日)
10	3月26日	湘北短大	「コミュニケーションリテラシー」のふりかえり。 アンケート結果の報告と今後の検討。

2-1 コミュニケーション教育研究会

第3回 の例 ケースメソッドの紹介

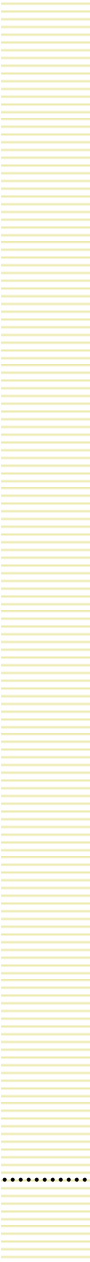


慶應義塾大学（飯盛研究室）
西田みづ恵（M1）、蒲地亜紗

藤沢高校： 住谷先生、齋藤先生
茅ヶ崎高校： 三橋先生
有馬高校： 宮地先生
二宮高校： 岩崎先生

湘北短期大学： 岩崎、小野目、小田
井、藤澤、小棹





2-2 アンケート調査

2-2 高校アンケート

■ 平成19年：

- 対象：湘北短期大学近隣の高校366校の学校長と教科「情報」担当者
92校回答 (回収率 25.1%)、2名による回答：約20校
- 調査期間：平成19年6月30日～7月20日

■ 平成20年：

- 対象：高大連携校（各校複数回答） 104通回答
全国高校（5211校）への回答を依頼 751通回答 （14.4%）
- 期間：平成20年9月5日～10月1日

■ 内容：

- キャリア基礎能力と社会人基礎能力の必要性と達成度、「情報」との関連性
- 高校教員の観点から、高等学校卒業時に必要であるが、不十分と考えられるキャリア/社会人基礎能力の把握
- 地域性があるのかどうかの検討
- 社会人に必要とされる基礎力を細分し、これら項目間での関連を探る
- 大学進学上の問題点の把握

2-2 キャリア基礎能力と社会人基礎力

キャリア基礎能力

- a. 一般常識
- b. コミュニケーション能力*
- c. ビジネス文書力
- d. 英語基礎力
- e. PC基礎操作力
- f. ビジネスの理解
- g. 就労意識
- h. 課題発見能力
- i. 専門知識・技能
- j. 企画・提案能力

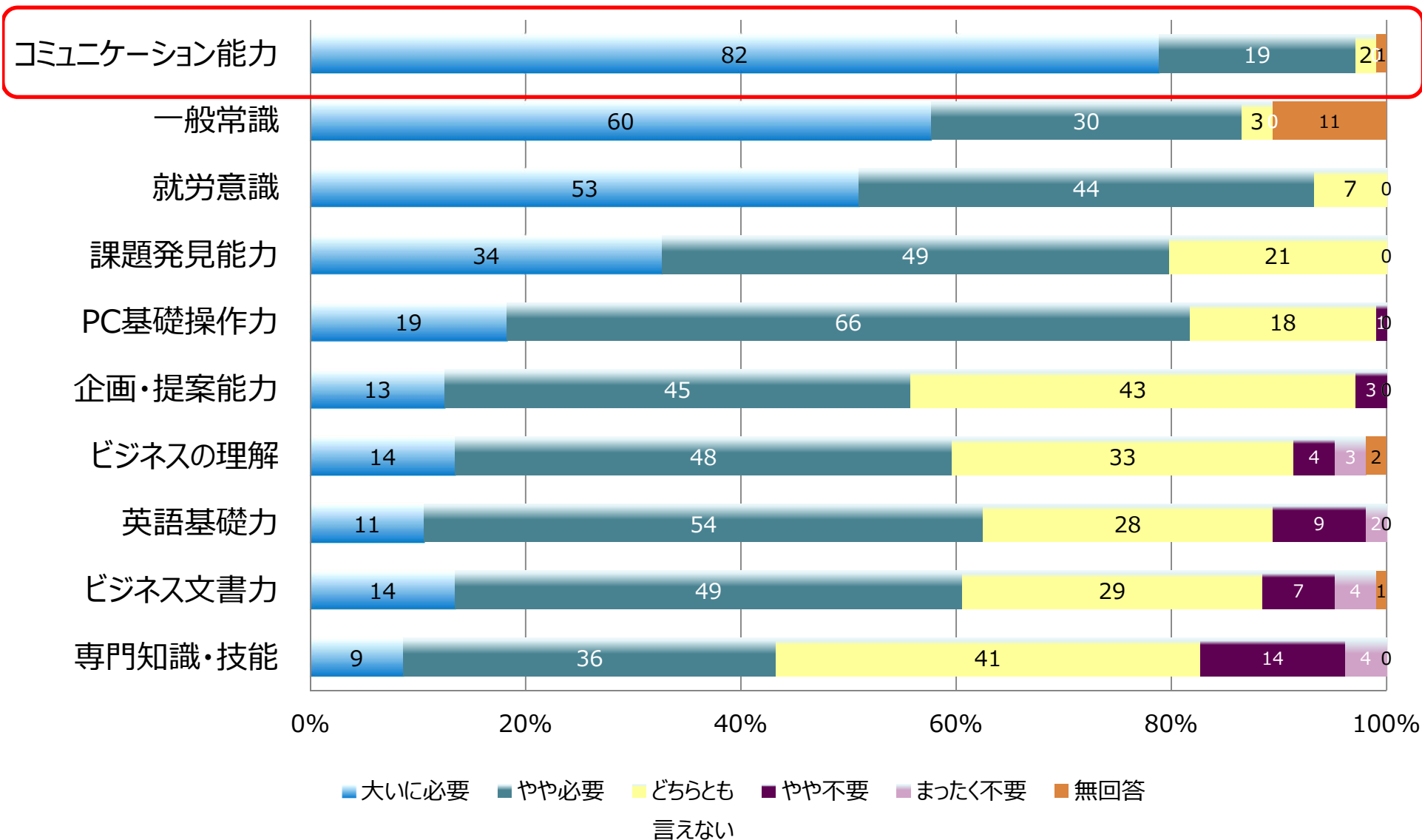
*他人の意見を聞き自己の意思を伝える能力

社会人基礎力

- ①物事に進んで取り組むことができる
- ②他人に働きかけ巻き込むことができる
- ③目的を設定し確実に行動することができる
- ④現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる
- ⑤課題の解決に向けたプロセスを明らかにすることができる
- ⑥新しい価値を生み出すことができる
- ⑦自分の意見を分かりやすく伝えることができる
- ⑧相手の意見を丁寧に聴くことができる
- ⑨意見の違いや立場の違いを理解することができる
- ⑩自分と周囲の人々や物事との関係性を理解することができる
- ⑪社会のルールや人との約束を守ることができる
- ⑫ストレスの発生源に対処することができる

2-2 アンケート結果 連携校(平成20年)

大学で育成して欲しいキャリア基礎能力



3. 入学事前授業確立まで

3. 入学事前授業確立まで

- アンケートからわかったこと

- 「コミュニケーション能力」の必要性が際だって高い（確認ができた）
- 「一般常識」「就労意識」「課題発見能力」も必要だが不足
- 問題発見・解決能力、表現力やプレゼンテーション能力もつけたい

- 研究会での議論

- 早期に進路決定した生徒の勉学への動機付けが必要
- 2～3月を大学入学のための準備期間として接続講座ができないか



- 高大接続講座の試作

- 湘北短大の教育を俯瞰できるもの
- グループ作業を取り入れた実践型授業
- Project Based Learning（PBL）の体験できるもの
- 時期：入学前の2-3月

3-1 「入学前講座」の試験的開講



【目的】

- 大学と高校の違いの理解
 - 大学や社会で必要とされるコミュニケーション力をつける
- 「コミュニケーション力」は、高校で学んだ知識をベースとした「[読・書・話・パソコン]により、他人とともに仕事をこなす力」、と定義

【対象】 高大連携高校から本学入学が決定した生徒、希望者のみ

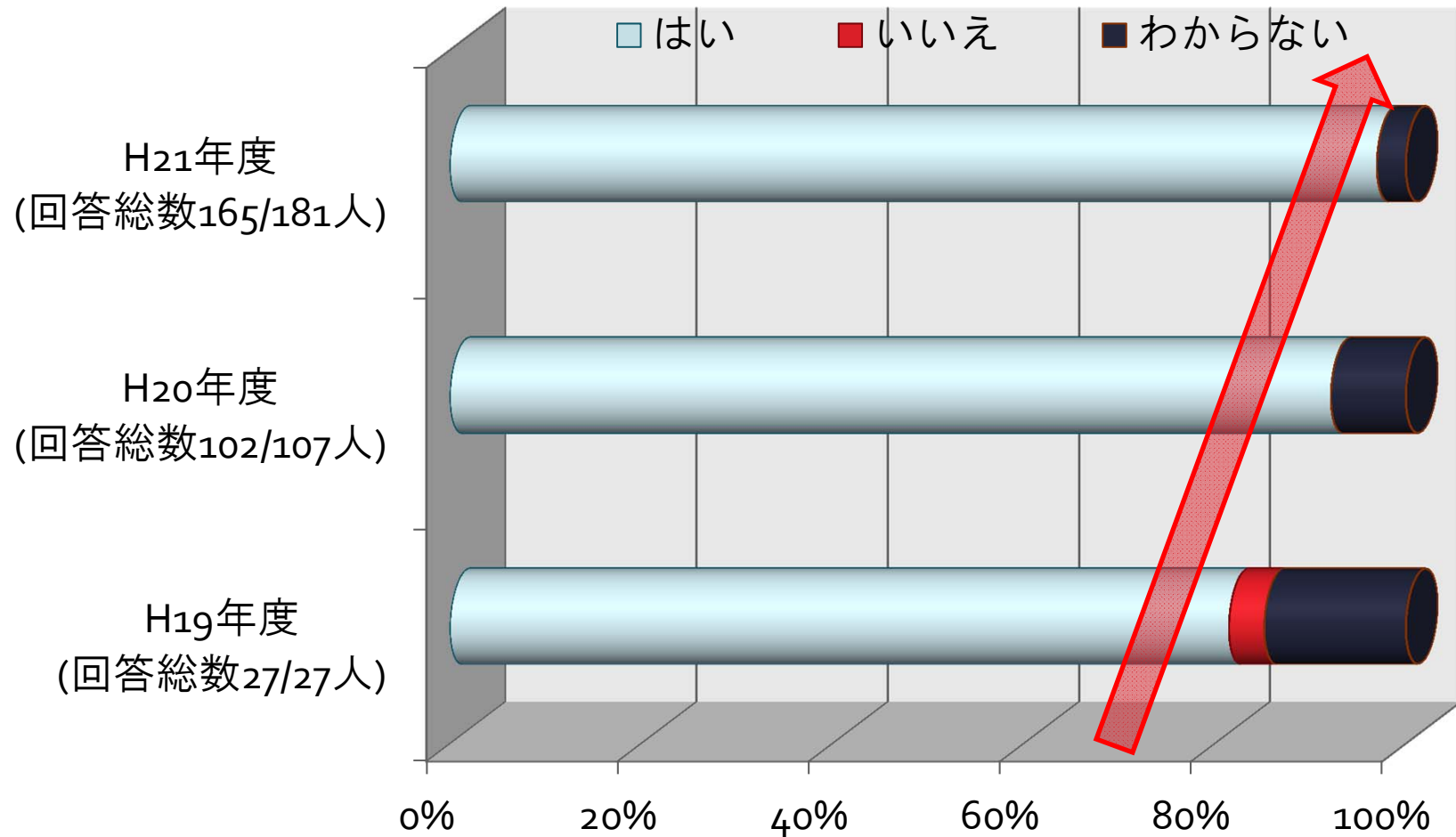
【場所】 湘北短期大学の資源を利用

【コマ数等】 90分/コマ × 12コマ

【結果】 平成20年は試験的、受講生30名

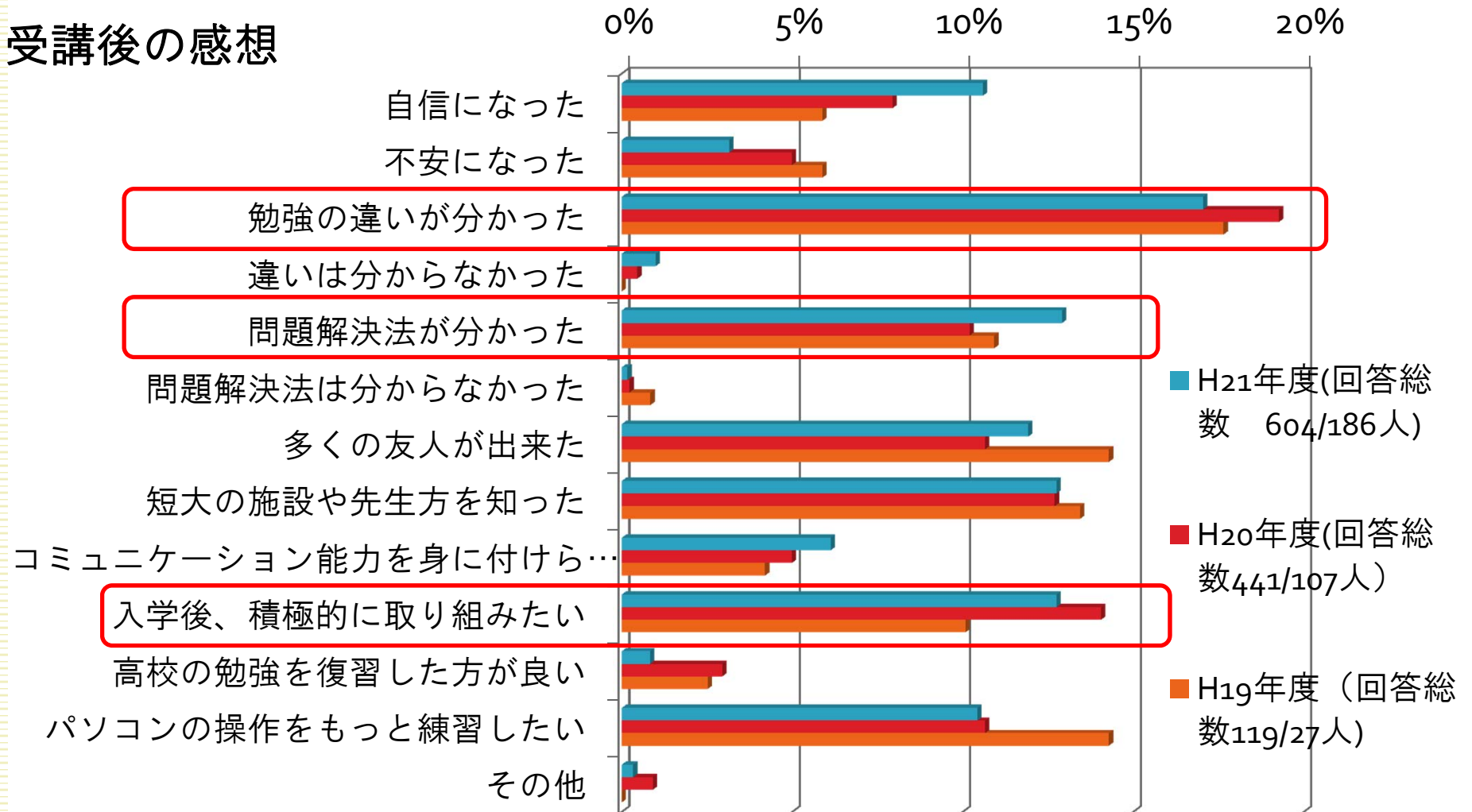
3-1 受講生のアンケート

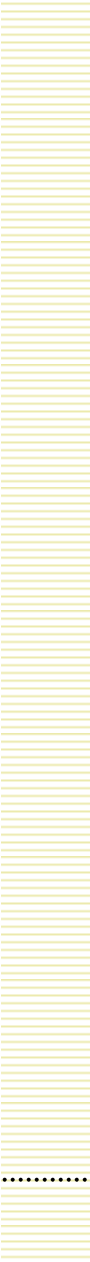
後輩や他人に勧めますか



3-1 受講生のアンケート

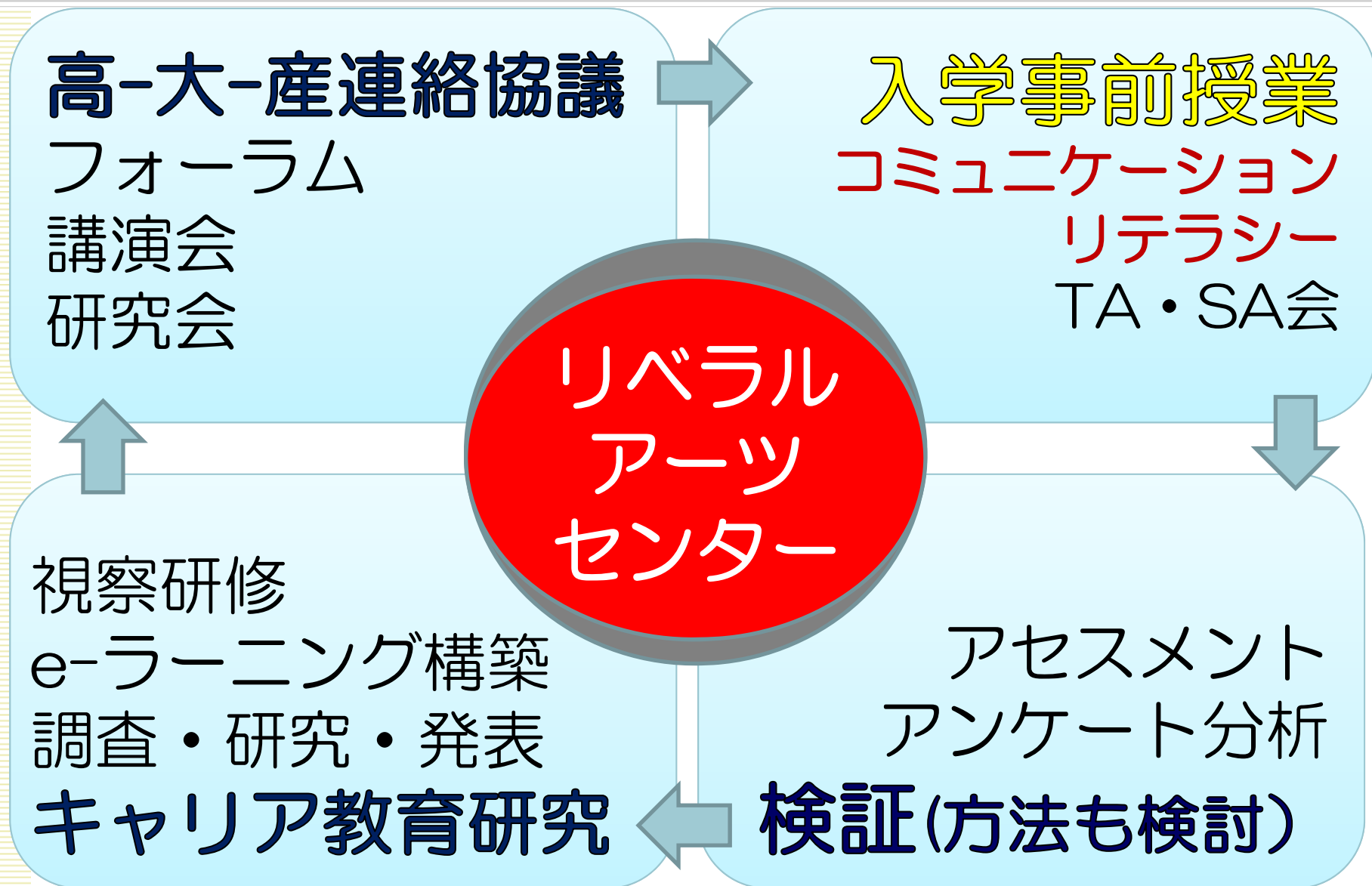
受講後の感想





3-2 内容の充実

3-2 GP支援による内容の充実



3-2 GP支援による内容の充実

高大産連携 キャリア教育フォーラム（H22年6月12日）

- 基調講演： マイナビ編集長 望月 一志氏
- パネルディスカッション：日産自動車・ソニー株式会社
就職した卒業生の視点で高校・大学での教育を振り返る
vs 職場上長から卒業生を客観的に評価

米国教育機関 視察（H22 年9月）

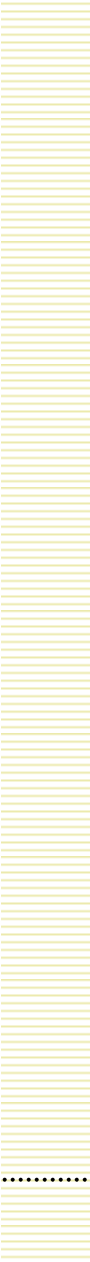
- Boston：公立チャータースクール
- Washington DC：コミュニティカレッジ
- New York：私立4年制大学 Monroe College
- Chicago：City Colleges of Chicago(7大学の地域連携)
- Chicago: Shakespeare Center

高大産連携 第2回キャリア教育フォーラム（H23年10月8日）

- 基調講演： 文部科学省 渡辺 廉弘氏
- 基調講演： アクティブラーニング 友野 伸一郎氏
- シンポジウム：

人事・総務の立場 ソニー株式会社、厚木市農業協同組合

vs 卒業生 三光機械株式会社、JAあつぎ、厚木瓦斯株式会社



オペレーションの確定
自立
効率化

3-3 科目の完成

3-3 科目の完成(シラバス別添)

新

旧

H23	内容
1日目	【ガイダンス】 【アセスメント】
	【昼食】
	【ノンバーバルコミュニケーション】
	【コミュニケーションとことばの力】
2日目	【コミュニケーションの基本—話す技術】
	【昼食】
	【コミュニケーションの基本—書く技術】
	【図書館の活用と検索】
3日目	【問題の発見】
	【昼食】
	【問題の発見—MS-Office群の活用】
	【情報の分析と問題解決① グループワーク】
4日目	【情報の分析と問題解決② グループワーク】
	【昼食】
	【プレゼンテーション グループワーク】
	【まとめと発表】
e-ラーニング	
入学後	【まとめ】

H22	内容
1日目	【ガイダンス】 【検定】
	【昼食】
	【メモの取り方】
	【メモの取り方・アイデアの出し方】
2日目	【コミュニケーションの基本—話す技術】
	【昼食】
	【コミュニケーションの基本—書く技術】
	【図書館の活用と検索】
3日目	【問題の発見】
	【昼食】
	【問題の発見—MS-Office群の活用】
	【情報の分析と問題解決① グループワーク】
4日目	【情報の分析と問題解決② グループワーク】
	【昼食】
	【プレゼンテーション グループワーク】
	【まとめと発表】
課題	
入学後	【情報倫理1】
	【ビジネスツールとしてのE-mail】
	【まとめ】 【検定】

3-3 第7-9回授業のポイント

■ グループで「問題」の発見と解決を行う

- 現状を観察・分析し、「あるべき」状況を見つける
- その状況を達成するために必要なことを考える（アイデアを出す）

■ 本講の目的：

- 問題解決技法を学ぶ（知識）
- グループで作業することを学ぶ（役割分担して効率良く作業を進める）
- 意見、提案をプレゼンテーションする力を養う（アイデアをまとめ、表現する）
- 結果を評価をすることを学ぶ（他者のプレゼンテーションの良い点・改良すべき点を考える）

■ 授業展開のポイント

- 教員側で「シナリオテンプレート」を用意
- 時間を区切って進捗管理を行う
- SA/TAを適切に配置する

3-3 科目の完成



ノンバーバルコミュニケーション



図書館の利用と検索

発音しにくい言葉も
こつをつかんで練習!

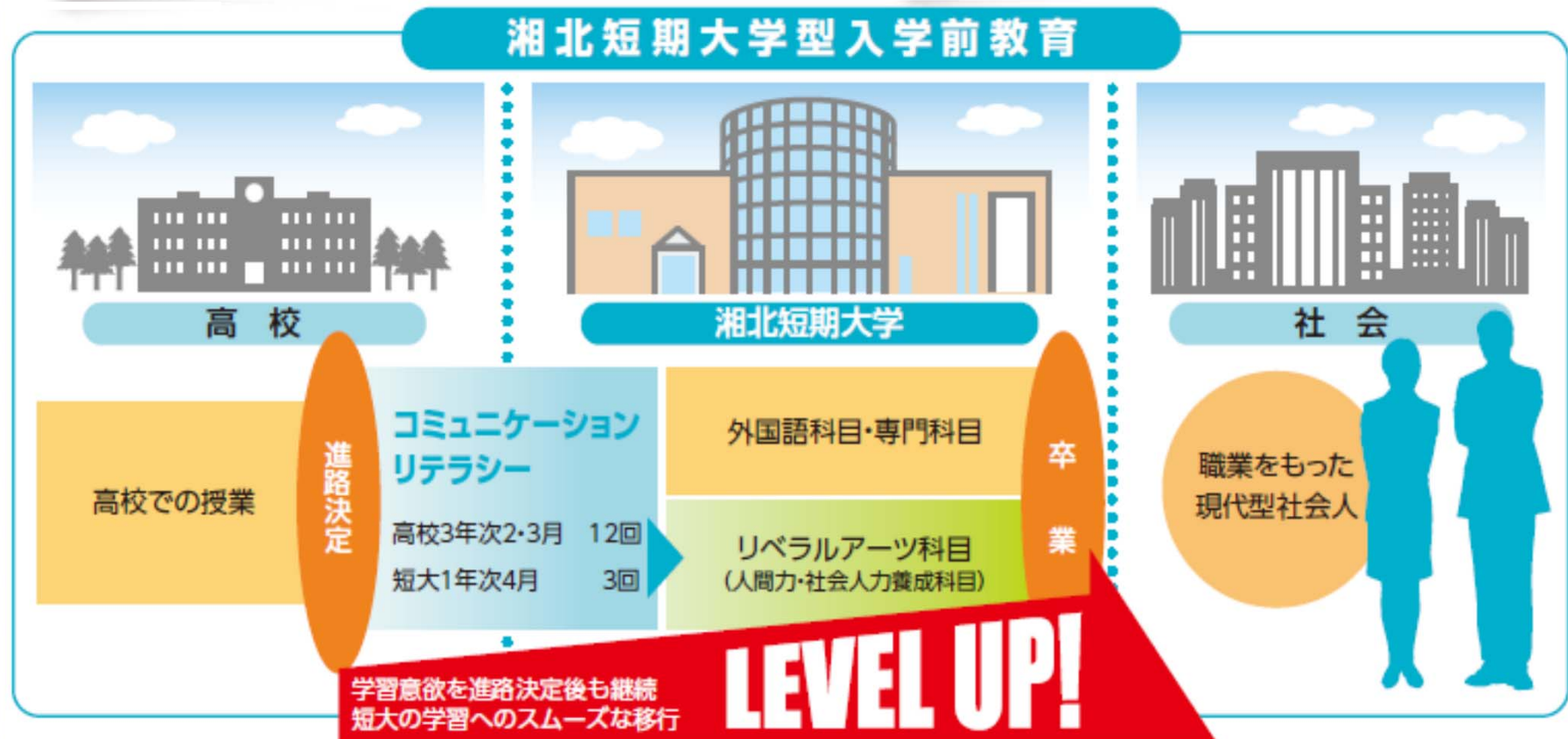


問題の発見/情報の分析と問題解決
(Excel, BrainWriting, PowerPoint)
まとめと発表



3-3 科目の完成

- 平成22年～ 90分/コマ 、 15コマ
入学後 リベラルアーツ科目として 2 単位を認定
- 平成23年～ E-ラーニングを導入



4日間、通常授業とほぼ同じ授業を受けた学生

4. 入学事前授業の効果は？

4. 効果の検証

■ 受講者数

- H21年から申し込み率増加
- H25年入学生は90%が申し込み
- H23年は東日本大震災のため半数（3月日程）が受講できず

■ 受講生へのアンケート調査(4-1)

- 受講直後
- 受講 1 年後

■ 社会人キャリア力育成アセスメント(4-2)

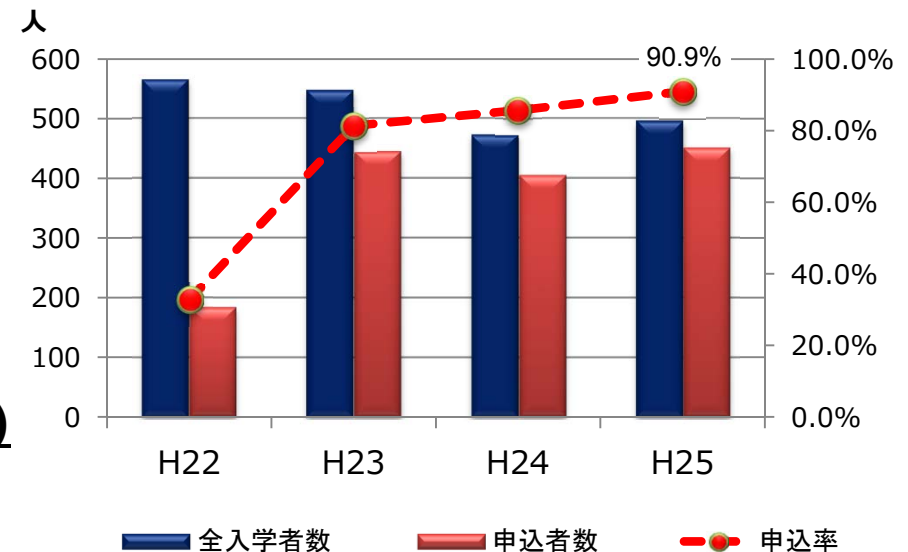
- 社会人基礎力＋基礎学力を問う。自己評価と客観評価からなる。
- 短期効果と1年後の効果

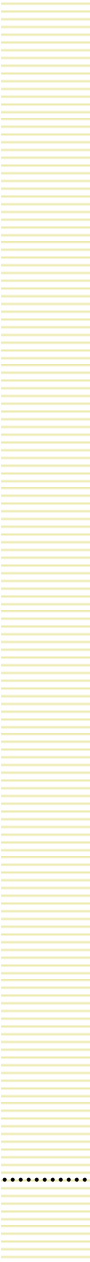
■ 企業からの卒業生評価

就職率 97%

■ e-ラーニングアンケート調査(4-3)

■ 高校教員からの評価(4-4)

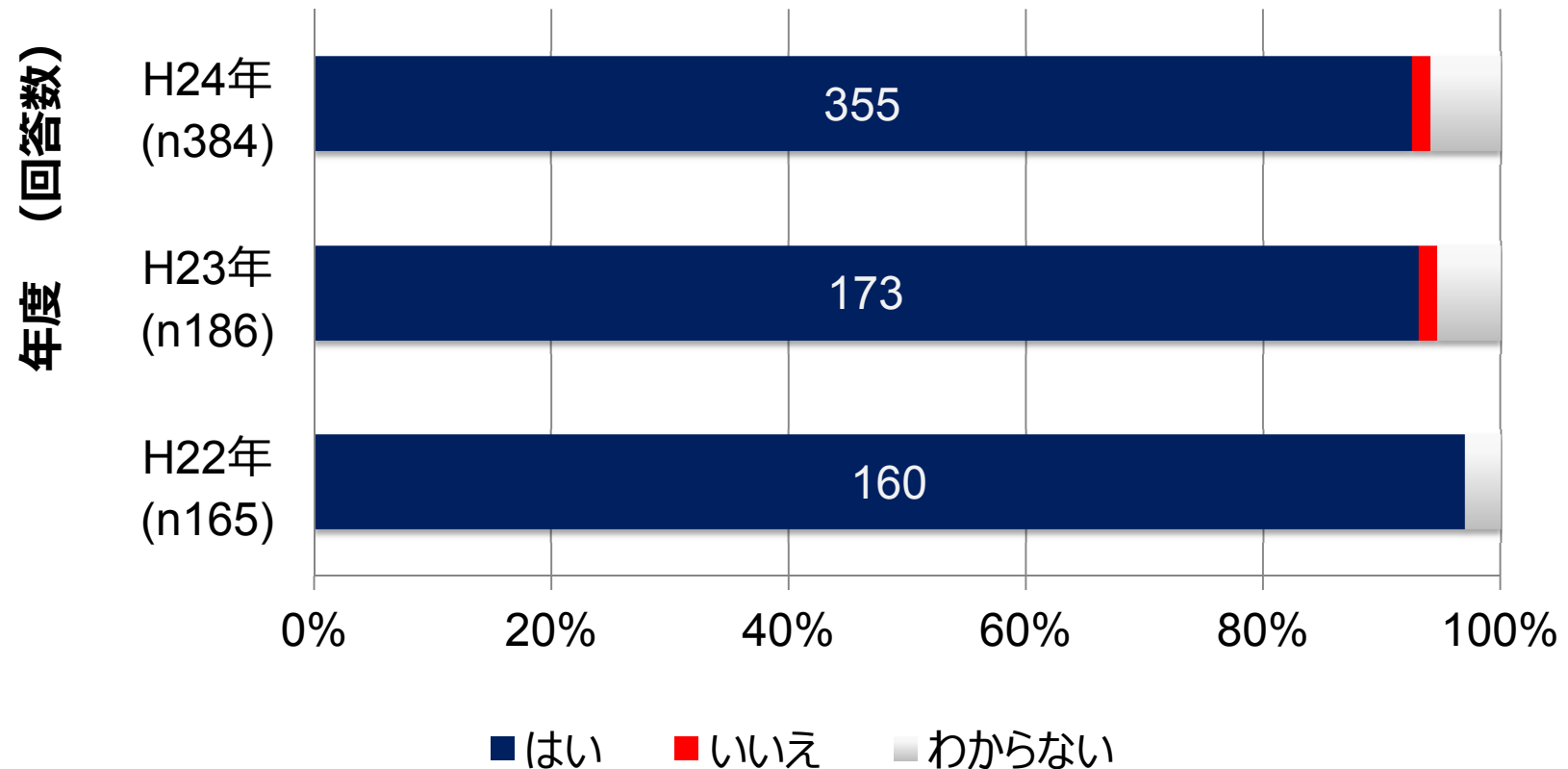




4-1 受講生に聞いてみました

4-1 受講生アンケート結果

後輩や友人に受講を勧めますか？



4-1 受講生アンケート結果

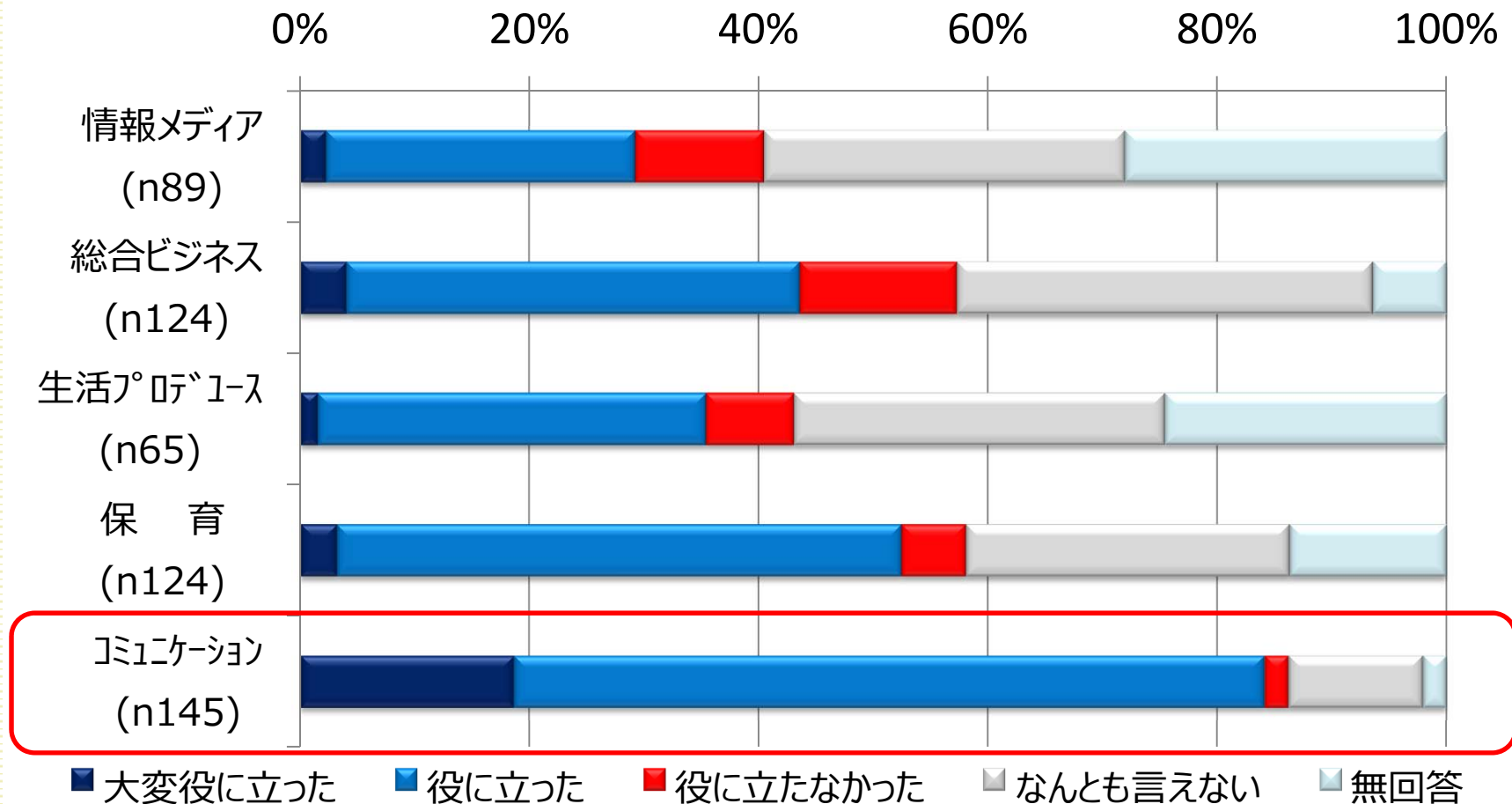
- 短大は高校と違って自分から積極的に動かなくてはいけないということがわかった。
- 友達とアイデアを出して 1 つのものを作り上げる楽しさを体験した。
- 自分の意見だけでなく、周りの意見もとりいれながら結論をだすことの難しさがわかった。
- コミュニケーション能力がついたと思う。わからないことを自分で調べることも大事。
- グループワークやプレゼンの仕方、話し合いの進め方など今まで詳しく教えてもらっていなかったので新鮮だった。
- グループ内で役割分担し、一人ひとりが何かに取り組むことで一つのものができることの大切さがわかった。
- 事前に大学の様子が知れ、90分授業に慣れることができた。
- 限られた時間の中で仕事をこなすことの重要性を学んだ

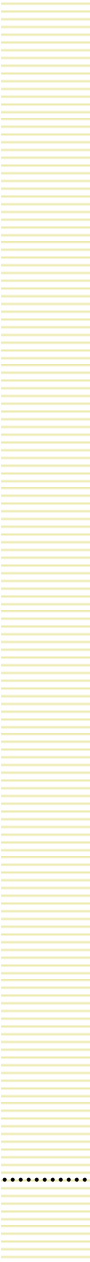
4-1 受講生振り返りアンケート結果

受講1年後の振り返りアンケート回答

・学科ごとの入学事前学習やコミュニケーションリテラシーは役に立ちましたか？

(下記「コミュニケーション」が全学的な入学事前授業)





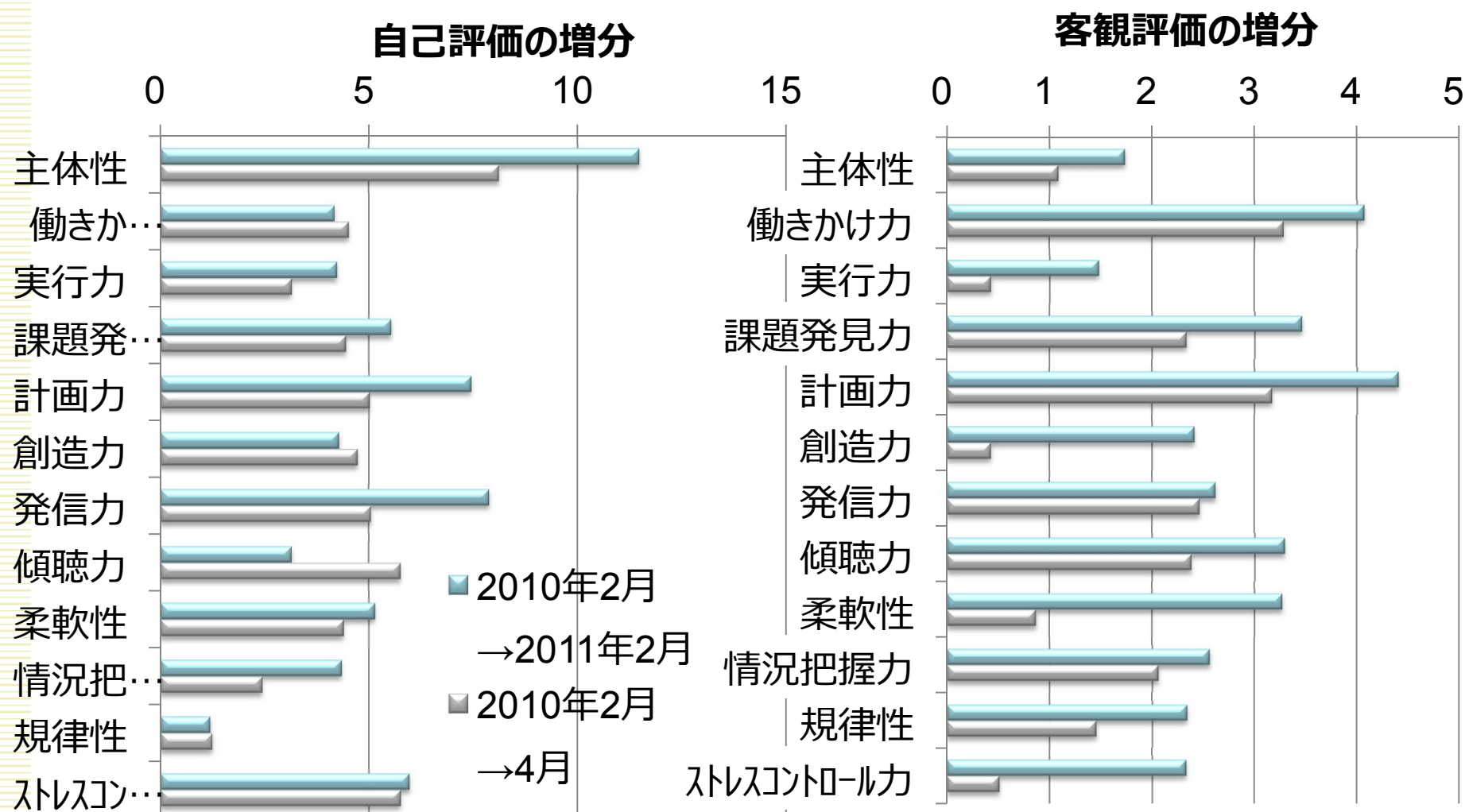
4-2 客観的に評価してみました

4-2 社会人キャリア力育成アセスメント

平成22年 入学生の例		入学前2月 (N=180)		入学後4月 (N=169)		推移 (2月→4月の増分)					
		2月8日、9日		4月17日、24日		自己評価			客観評価		
		自己 評価	客観 評価	自己 評価	客観 評価	F検定	t検定	自己 評価	F検定	t検定	客観 評価
社会人基礎力	主体性	64.44	77.73	72.54	78.82	0.56	0.00	8.10	0.21	0.17	1.08
	働きかけ力	65.44	80.62	69.94	83.91	0.47	0.01	4.50	0.48	0.00	3.28
	実行力	68.22	82.93	71.36	83.36	0.39	0.04	3.14	0.29	0.61	0.43
	課題発見力	64.56	86.02	68.99	88.36	0.36	0.01	4.44	0.10	0.01	2.33
	計画力	60.44	89.42	65.44	92.59	0.83	0.00	5.00	0.00	0.00	3.17
	創造力	61.56	84.04	66.27	84.47	0.98	0.01	4.72	0.46	0.63	0.43
	発信力	61.11	86.20	66.15	88.66	0.31	0.00	5.04	1.00	0.01	2.46
	傾聴力	79.22	79.13	84.97	81.51	0.29	0.00	5.75	0.50	0.01	2.38
	柔軟性	76.44	86.78	80.83	87.64	0.41	0.00	4.38	0.82	0.36	0.87
	状況把握力	75.67	89.07	78.11	91.12	0.83	0.10	2.44	0.01	0.02	2.06
	規律性	86.22	89.98	87.46	91.43	0.91	0.35	1.23	0.00	0.15	1.45
	ストレスコントロール力	68.22	80.22	73.96	80.73	0.39	0.00	5.74	0.92	0.62	0.51
常識社会人	日本語力	62.00	54.83	64.97	56.04	0.81	0.07	2.97	0.47	0.49	1.20
	社会マナー	73.33	52.00	77.16	68.93	0.00	0.01	3.83	0.38	0.00	16.93
	時事問題	58.33	28.17	62.84	30.41	0.63	0.00	4.51	0.02	0.14	2.25
	計算力	65.78	49.28	68.88	40.00	0.39	0.07	3.10	0.82	0.00	-9.28

t検定により有意水準 $p<.05$ で差が認められたものを太字で記した

4-2 社会人キャリア力育成アセスメント



「気づき」： 必要な能力を意識することが第一のステップ

4-2 受講生 vs 非受講生(H22 年入学生)

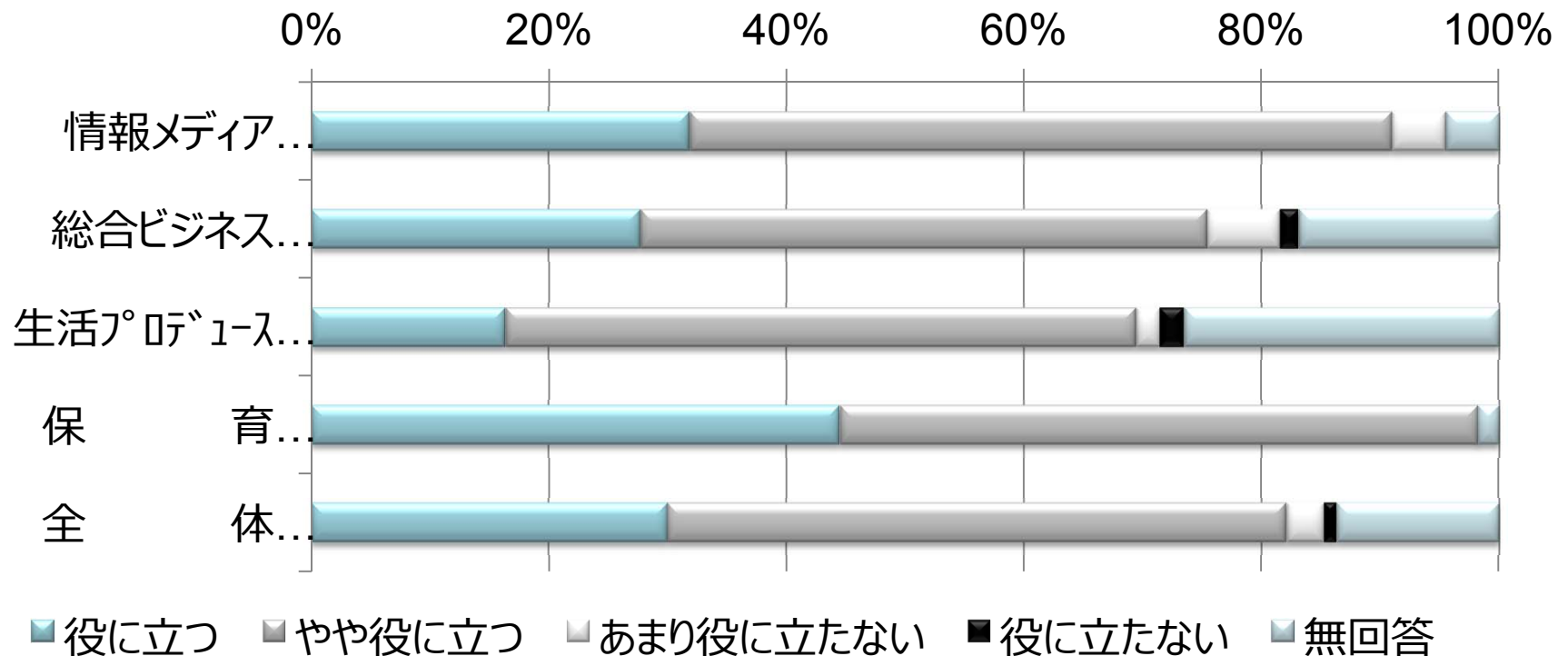
社会人 基礎力	受講生のみ		非受講生		比較	
	入学1年後2月 (n=127)		入学1年後2月 (n=267)		(受講生－非受講生)	
	自己評価	客観評価	自己評価	客観評価	自己評価	客観評価
主体性	75.91	79.46	71.09	78.20	4.82	1.26
働きかけ力	69.61	84.69	67.94	82.26	1.67	2.43
実行力	72.44	84.41	69.44	83.03	3.00	1.38
課題発見力	70.08	89.48	68.69	87.84	1.39	1.65
計画力	67.87	93.83	64.49	92.10	3.38	1.72
創造力	65.83	86.46	64.49	85.57	1.33	0.88
発信力	68.98	88.82	62.47	87.64	6.50	1.18
傾聴力	82.36	82.43	81.95	81.38	0.41	1.05
柔軟性	81.57	90.05	80.82	89.48	0.75	0.56
状況把握力	80.00	91.62	78.05	90.46	1.95	1.17
規律性	87.40	92.31	85.77	90.92	1.63	1.39
ストレスコントロール力	74.17	82.55	70.11	80.37	4.06	2.18

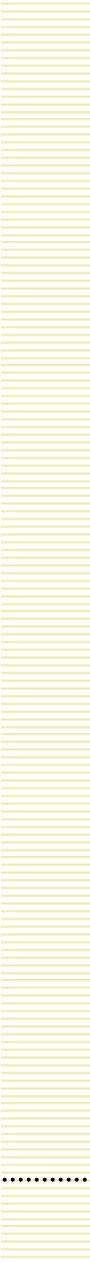
4-3 E-ラーニングを導入してみました

4-3 e-ラーニングに対するアンケート結果

- 就職試験として実施される一般常識問題に類似の3分野（言葉42問，暮らし44問，数学42問）からなるWeb課題.
- 平成23年3月15日～4月20日の間で197名のうち85.3%が受講

Q: 役に立ちましたか？





4-4 外部の声

4-4 連携高校教員からの評価

- **高大連携校からの入学者の受講率は毎年ほぼ100%**
 - 2013年 入学者 449人中 連携校 171人
 - 受講率90.8%、 連携校受講率 98.8%
- **高大連絡協議会での意見交換**
 - 「コミュニケーションリテラシー」のグループプレゼンテーションは高評価
 - 部分的に授業に取り入れた高校も
 - 申込方法
 - 連携高校からの受講希望者は、取りまとめて申込
 - 生徒の通学途中の安全性の問題
 - 平成22年度から本学で保険金を負担することで解決

4-5 評価のまとめ

■ PDCAサイクルを繰り返すことによって、課題を解決

- 「コミュニケーションリテラシー」（入学事前授業）を受講して勉学意欲が高まったことが確認できた。受講直後、1年後共に満足度（有用度）は毎年90%前後で一定した評価が得られている。
- 高大産連携フォーラム・アンケート・アセスメントの結果を踏まえて「社会人基礎能力」も向上するプログラムへ改良した
- 社会人常識力強化のために「e-ラーニング」を導入。通学圏外の生徒にも対応、効率も向上した
- 授業に「ノンバーバルコミュニケーション」を導入
- TA/SAもファシリテーターとして成長。TA/SA会での反省点を授業に活用して良い方向に。

■ 高校の先生方からも高評価

- 3月の高大連携協議会で生徒の最終プレゼンテーションを報告、一定の評価を得た。

5 まとめと課題

5-1 まとめ

■ 高大連携の重要性

- 高大連携事業（研究会）をとおして高校、大学双方のニーズに合致する
接続講座の構築を目ざしたことが入学事前授業の確立につながった

■ 入学事前授業の効果

- 早期から社会人に必要な力を獲得するための大学での学びを理解させることができた
- 入学前から学生に勉学意欲を持たせることができた

■ 入学事前授業開発に伴うその他の効果

- 大学全体を横断してカリキュラムを改善することにつながった。教育改革プロジェクトが編成され、全学的なプラットフォーム科目の開発が進んでいる。

■ 組織的な取り組みの重要性

- 入学事前授業の実施には、全学的な取り組みが必要、教職員の理解と組織としてのオペレーション体制の確立が必要
- ICTセンター、インターンシップセンターの協力が不可欠であった
- 平成18年度「特色GP」での高大連携ネットワーク構築経験が貢献した

5-2 今後の課題

■ 入学後の後継科目

- アクティブラーニングを取り入れた授業を実施する科目の開発
→ 全学的にプラットフォーム科目の設置が進みつつある

■ ICT活用

- e-ラーニングも取り入れているが、今後さらなるコンテンツの充実と積極的な活用が必要

■ 高等学校－大学の教育をシームレスに：共通の研究課題

- アクティブラーニング
- サービスラーニング
- キャリア教育
- 高大接続試験
- メンタルヘルス

参考資料

- 小棹理子・伊藤善隆・高橋可奈子・野村亞住、
「大学生のための基礎力養成ブック」 丸善出版（2012） ISBN978-4-621-08518-9
- マーチン・トロウ（天野郁夫・喜多村和之 訳）「高学歴社会の大学—エリートからマスへ」
UP 選書 東京大学出版会(1976)
- 本田由紀、「多元化する「能力」と日本社会—ハイパー・メリトクラシー化のなかで」
NTT出版（2005） ISBN 978-4757141049
- 日本リメディアル学会監修 「大学における学習支援の挑戦」
ナカニシヤ出版（2012）
- 小棹理子・伊藤善隆・岩崎敏之・高橋可奈子、
「社会人育成を俯瞰する短大型入学前教育の構築」
ICT活用教育方法研究 vol15、pp43-48（2012）
- 湘北短期大学、「現代型社会人育成を俯瞰する入学前教育構築」
平成22年度大学教育改革プログラム合同フォーラム 平成23年1月24日
pp96-99（2011）
- 小棹理子、「コミュニケーションリテラシー～高大連携から生まれた湘北短期大学入学予定者
対象の接続教育プログラム～」
大学と学生 vol54、pp57-63（2008）
- 各年度事業活動報告書

<http://scopp.shohoku.ac.jp/dl/index.html>

入学事前授業 コミュニケーションリテラシー





ご清聴ありがとうございました

小棹 理子

ozao@shohoku.ac.jp

